

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業  
研究開発課題：BPSDの解決につなげる各種評価法と、BPSDの包括的予防・治療指針の開発  
～笑顔で穏やかな生活を支えるポジティブケア～ 分担研究

【修正版 2020.3.16】

## 認知症症状の悪化を回避するケア

### “不同意メッセージ” という考え方の提案と コミュニケーション

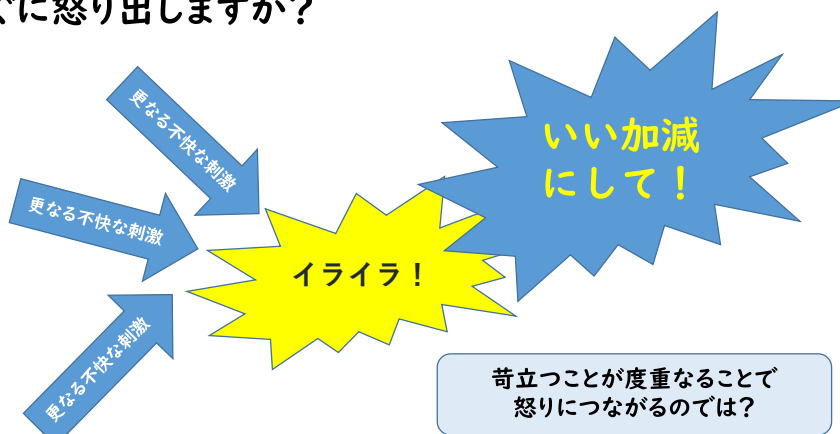


群馬大学大学院保健学研究科  
老年看護学 伊東美緒

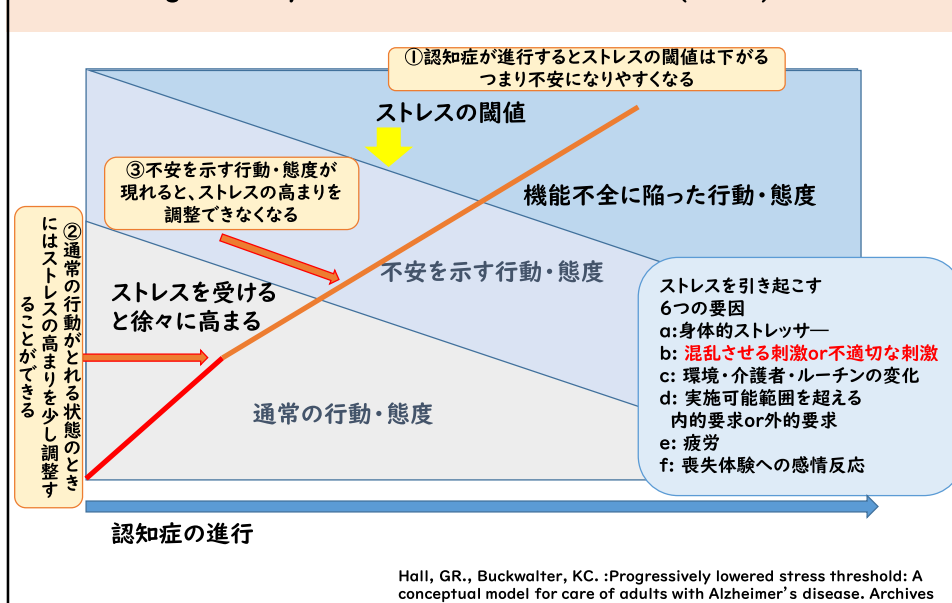
認知症症状は  
認知症の人だけに原因があるの？

# 私たちが怒る時・・・

- みなさんは、イライラしたときにすぐに怒り出しますか？



## 徐々に低下するストレスの閾値モデル Progressively Lowered Stress Threshold (PLST) Model



度重なる指示により、  
認知症症状が悪化してみえることも・・・

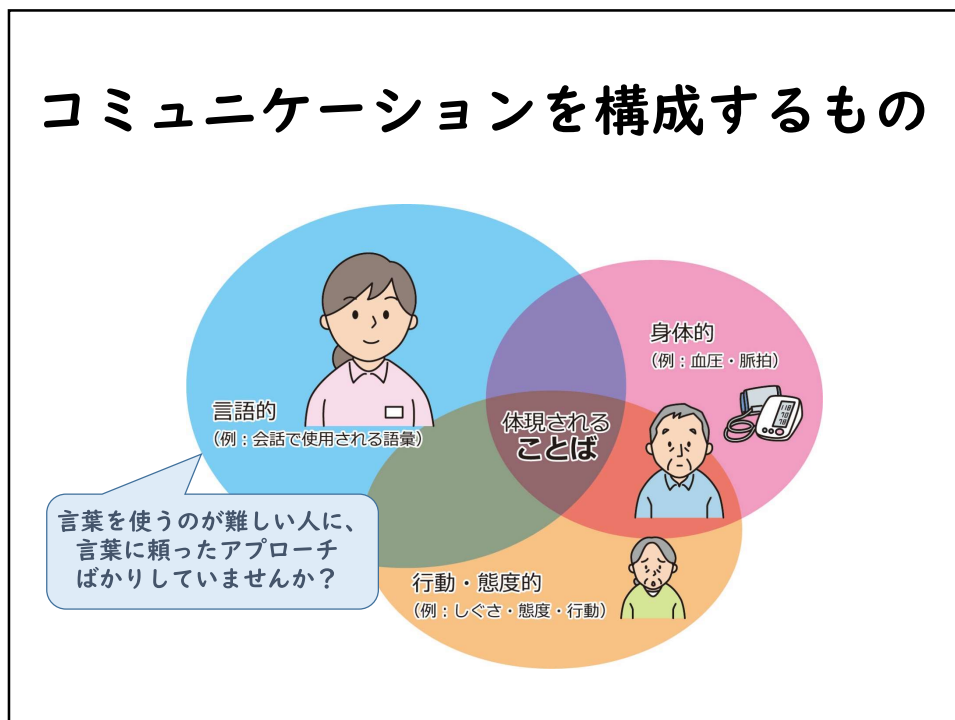


かかわりの中から生まれた認知症症状は  
かかわりで改善する努力を!

専門職が重要と思うものを重視しすぎると、  
認知症の人を追いつめる!?

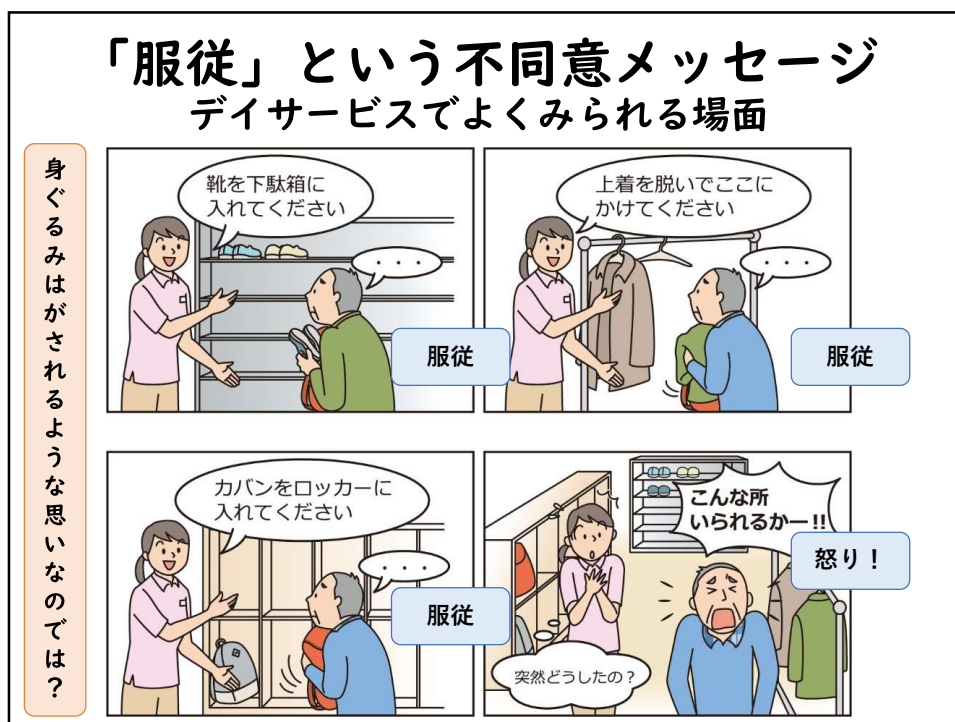


## コミュニケーションを構成するもの



## 観察調査からみつけた 5つの不同意メッセージ





## 「服従」という不同意メッセージ

- 自分の気持ちとしては「やりたくない」のに、職員が熱心に勧めるので「仕方なくやる」
- 職員は予定通りにできたことで問題視せず、別の場面でも繰り返し熱心に勧めてしまう

→ 認知症の人は  
自分の意図と反したことを  
強いられ続け、我慢の限界を迎えて  
怒り出したり落ち込んだりする



## 「服従」への気づきと対応

自分とのかかわりの中で、認知症症状が悪化したとき

★かかわりのプロセスを振り返り、

“本人が嫌がっていたのに半ば強引に誘導した”

と気づいたときは・・・

★“次回は声かけはするけれど、

無理に誘導するのはやめる”

といったプランを立てることができる。

無理強いしない  
ように・・・



本当は必要のない強制的なケアを減らすことが大切

## 「謝罪」という不同意メッセージ

「そういうの苦手」、「やりたくない」と表現しているのに、職員に強くすすめて仕方がなくやる。

すると簡単なことが“できない”ことに直面して落ち込むことにつながる。

そんなこと言わないで  
やってみましょう

性格がおとなしい  
アルツハイマー病の  
女性で、失行・失認の  
ある人によく観察される

出来る所  
までで  
いいですよ



## 落ち込んだときに現れるのが「謝罪」

自分なりに頑張るけれどもできない



すいません…  
こんな事も  
出来ずに…



謝ったあと、落ち着きをなくし「帰らせていただきます」などと言う（帰宅願望）けれども、「もうすぐ食事だから座ってください」などと言われて、また従ってしまう・・・

## 「転嫁」という不同意メッセージ

自分のせいではない、他の人や物のせいだと主張する

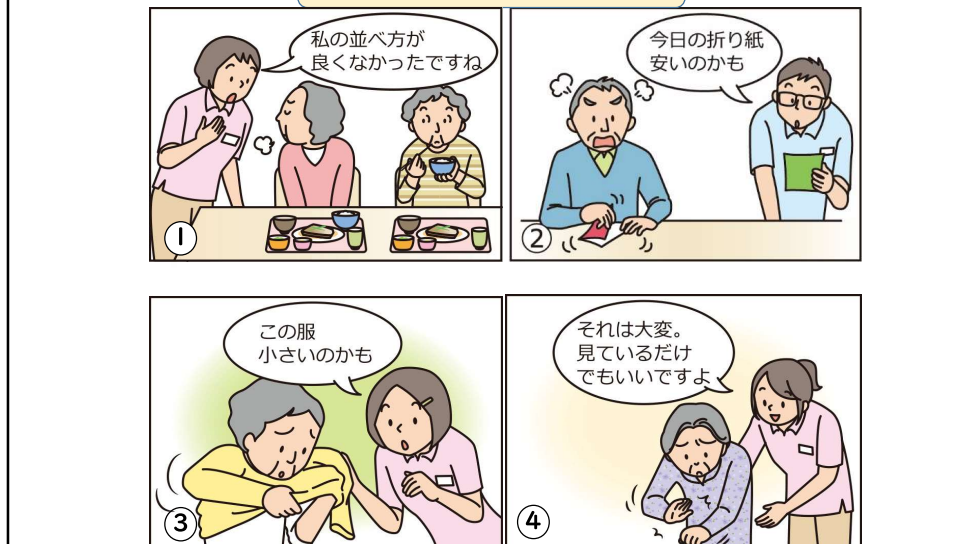


気丈な  
アルツハイマー病の  
失行・失認のある人に  
よく観察される

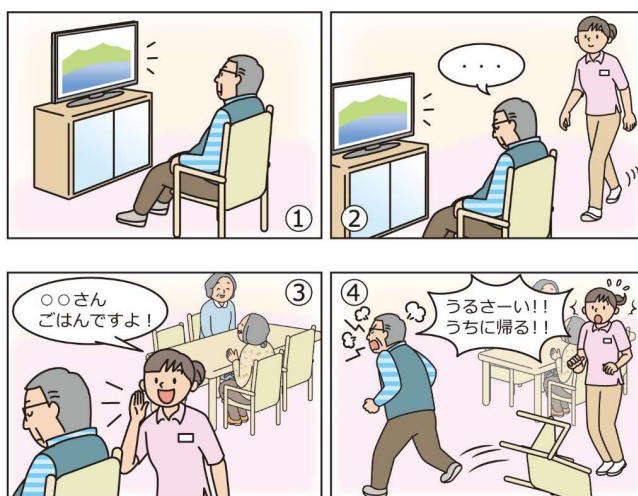


## 「転嫁」「謝罪」への対応

責任転嫁を手伝う！



## 「遮断」という不同意メッセージ



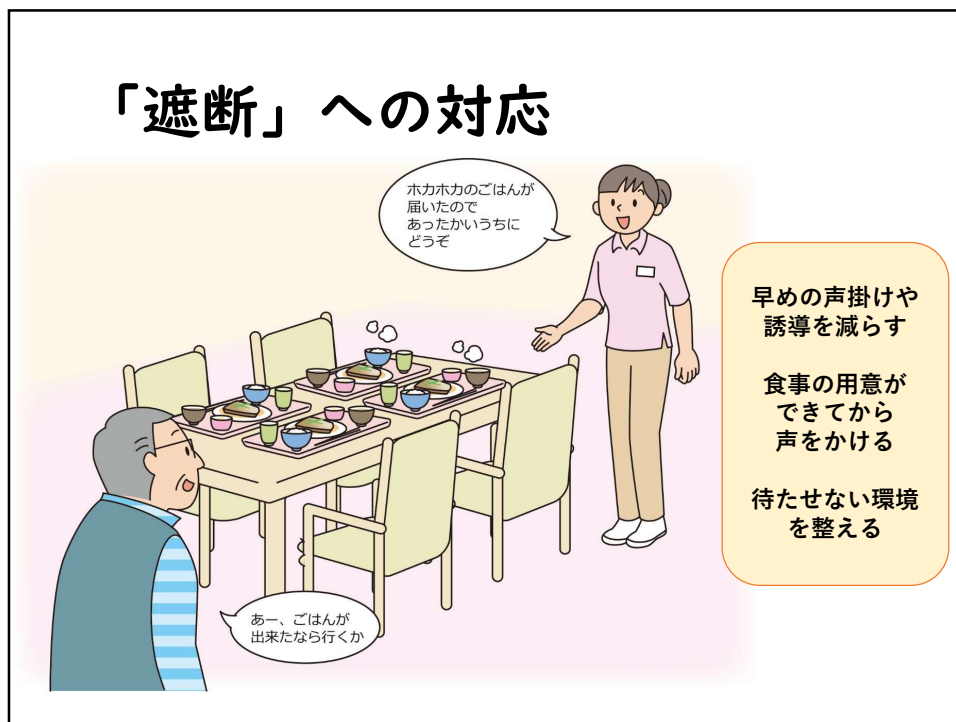
気の短い  
他者とのかわりが  
苦手な男性に多い

寝たふり  
聞こえないふり

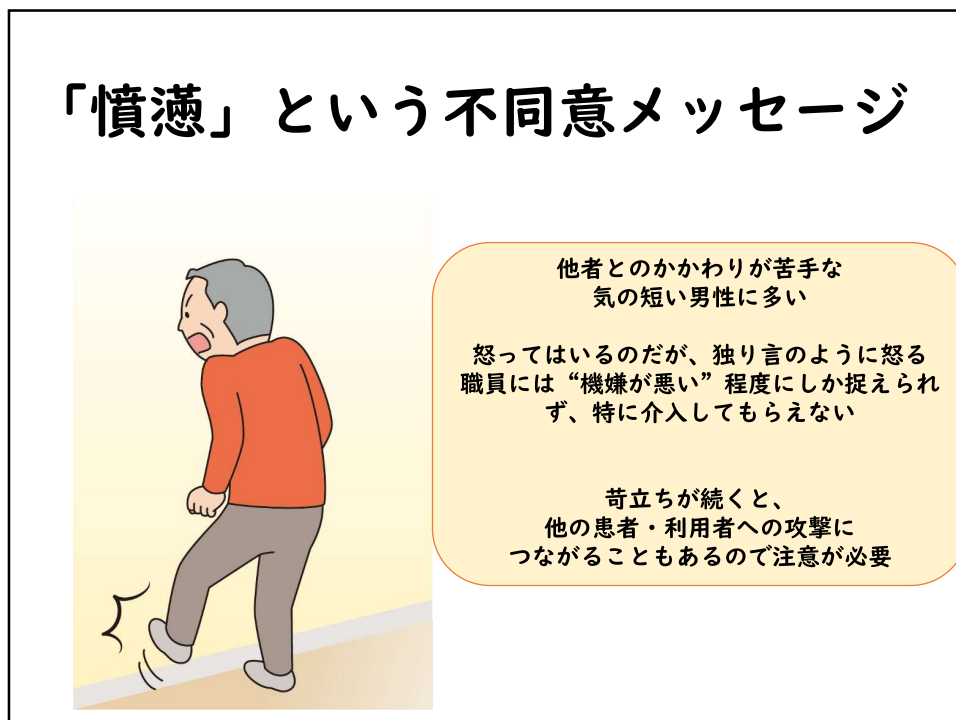
しつこく声をかけら  
れると怒り出す



## 「遮断」への対応



## 「憤懣」という不同意メッセージ



## 「憤懣」への対応

大きな声で声をかけると  
かえって怒り出すことが多い

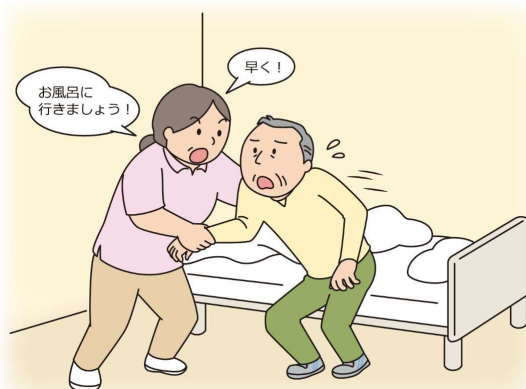
相手の目を見て、こちらに注意が  
向けられているのを確認してから  
ジェスチャーで伝える  
言語に頼ると苛立ちの原因になる

機嫌が悪いときには  
好きなことへの誘導が効果的



## 認知症症状を和らげるには 日常のケアの苛立ちポイントを知る！

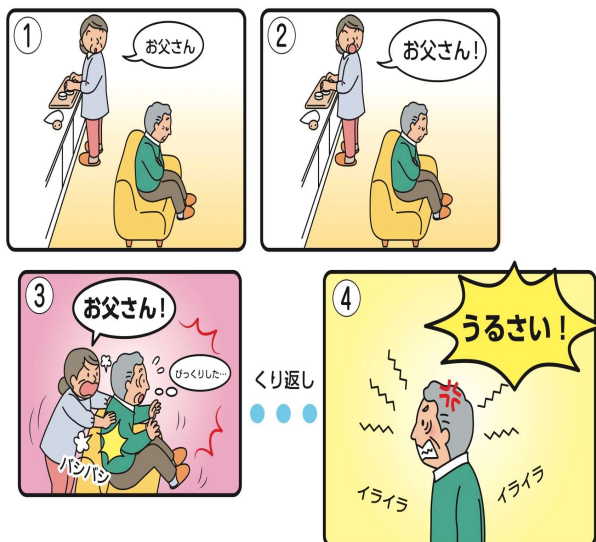
大きな声で声をかけられ、掴まれ、急かされたら・・・  
苛立つし、怖いし、腹が立つ！



不同意メッセージに  
気づいたら、無理強い  
を減らす工夫を  
話し合うことが大切。

同時に基本的な  
コミュニケーションを  
試してみよう！

## 日常的な声掛けにも問題が！ つい大きくなってしまいうで苛立つ可能性



認知機能や感覚機能が低下した人に肩をすくめる仕草がよく観察される

## 日々の苛立ちを減らすために・・・

お父さん

声をかけて反応を数秒まつとさらに効果的

視野に入り、目を合わせて声をかける。目を閉じているときには椅子やテーブルをノック。

ケアする人が話しかけてきたことを認識できれば意思疎通はかりやすくなる。苛立ちが少ないと受け入れてもらえる

家族にもお伝えください！

参考：ユマニチュード入門、本田美和子ら、医学書院、2015

## 対応に困る場面の読み解き方

### 認知症の人の“想い”を探る

## 繰り返し行動について考える

- ・ 繰り返しナースコールを押す（何度も呼ぶ）  
【現在の対策】可能な限り訪室する⇒解決しない！

**頑張っている割に、不安が蓄積！**

何が問題？

- ・ 来てくれない不安（コールが重なった時はいけない）
- ・ 来ても話を聞いてくれない不安（繰り返し対応することで業務が遅れ、スタッフがイライラするのでゆっくり聞ける心理状態にない）
- ・ 置き去りにされる不安（他の業務をこなすために「さっきトイレ行ったから大丈夫！」などと言ってすぐに退室）

## 頻回のナースコールへの対応

- ・安心してもらうためには、“**みんなが気にしてくれている**”と感じてもらうためのアプローチが必要！
- ☆優しく接するにはこちらに余裕がないとだめ
- ☆**よい感情記憶**を残すためには、短い時間でよいので、頻回に声をかけることが大切

やってみよう！

日勤スタッフが、一人につき午前1回、午後1回、  
「お話ししに来ました」「会いに来ました」と声をかける。  
1分以内でよし！（スタッフの負担になると継続できない）  
部屋を出るときには、「また来ますね！」を忘れずに！

## 暴言・暴力について考える

【現在の対策】

傾聴する、好きなことを探す（あまり効果ない）  
身体抑制、向精神薬（行動は抑えられるが身体・精神機能低下）

何が問題？

- ・スタッフ：認知症の人に“**恐怖**”を感じると、その人を見なくなる（目が合うと呼ばれるのでそれを避けたい！）
  - ・認知症の人：たくさんスタッフがいるのに、誰も自分を見てくれない＝“**存在そのものを否定される恐怖**”
- ➡スタッフの気をひくために、大声で何度も呼ぶ  
➡それでも反応が得られなければ怒り、暴力にいたることも！

# 暴言・暴力への対応

- ・安心してもらうためにはかかわりが大切
- ・しかし、スタッフも怖いので容易に近づけない

☆離れたところからでよいので、機会あるたびに  
5秒ほど目を合わせる

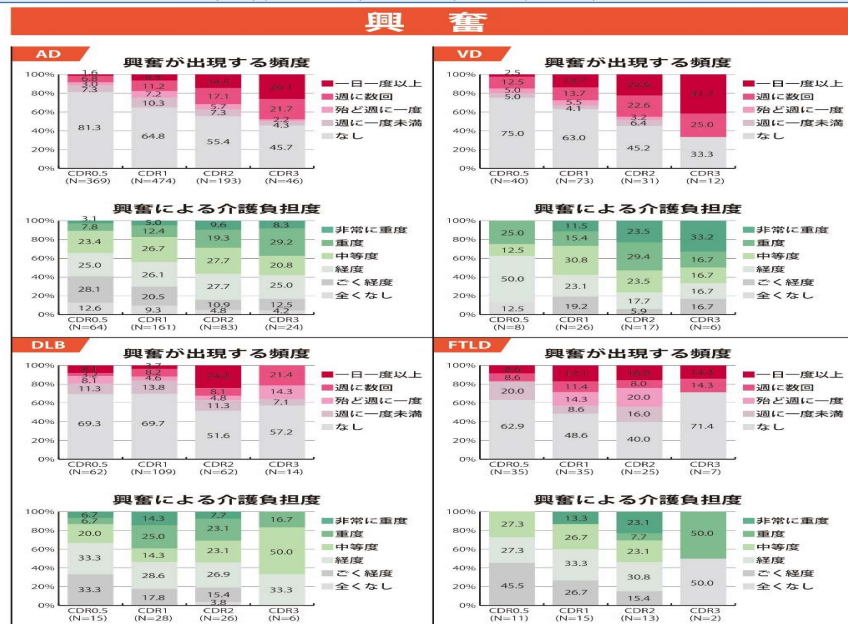
☆5秒見ていると、かなりの確率で目があう！

☆目が合ったら、笑いかける、会釈する、手を振る  
などのリアクションを返す！

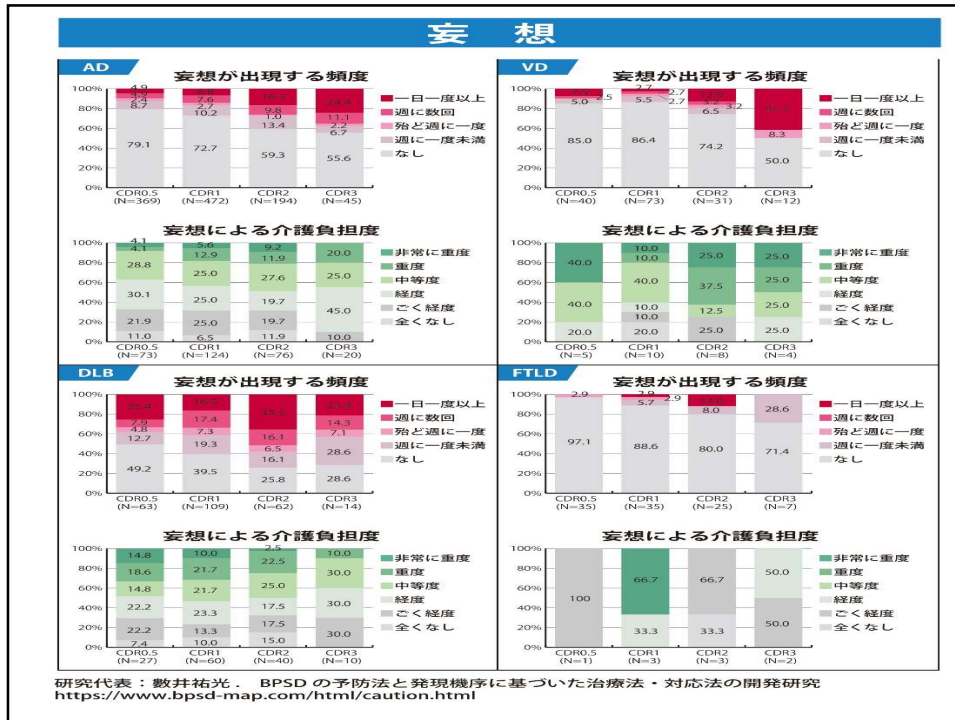
⇒スタッフみんなで行き届くことで、“**みんなが  
気にかけてくれている**”というよい感情記憶が残る

⇒表情がやわらかくなり、近づきやすくなる

認知症のタイプによって現れる症状・時期、介護の負担度は異なる！  
詳しくは <https://www.bpsd-map.com/html/caution.html>



研究代表：数井祐光。BPSDの予防法と発現機序に基づいた治療法・対応法の開発研究  
<https://www.bpsd-map.com/html/caution.html>



## 認知症ケアのキーワードは感情記憶！

“不同意メッセージ”に気づき、  
嫌なことを繰り返し強要する機会を減らそう

認知症症状の改善には、  
薬剤だけでなくケアの力が大切

不要な身体拘束や向精神薬の投与を防ごう

ケアスタッフの影響力はとても大きい  
よい関係性を結ぶためのアプローチ方法を探  
して、試して、言語化して共有しよう